

## 血圧の長期的な変動は心臓血管病および死亡のリスク増大と関連する

血圧高値の患者は、将来的な心臓血管病のリスクが高いことがこれまでの研究で確立されている。また、血圧変動が大きい患者は、平均血圧値が保たれている患者と比べてリスクが高いことも示唆されているものの、血圧変動の測定の違いによるリスクについては不明であった。本研究では、血圧の長期的（診察室での測定）、中期的（家庭での測定）、短期的（携帯型 24 時間血圧モニターでの測定）な変動について、平均血圧と独立した心臓血管イベントおよび死亡との関連を定量化するため系統的レビューを実施した。

Medline、Embase、Cinahl、Web of Science を 2016 年 2 月 15 日時点で検索し、成人を対象とした前向きコホート試験または臨床試験を適格とした。なお、血圧変動に直接的な影響を及ぼす可能性のある血液透析を受けている患者は除外した。その結果、長期的変動の検討は 24 論文、中期的変動は 4 論文、短期的変動は 15 論文（2 論文は長期と短期の両者を検討していた）について行った。解析 46 件のうち 23 件は、交絡リスクが高く主要解析から除外した。結果、収縮期血圧の長期的変動の増大は、全死因死亡（ハザード比 1.15）、心臓血管病死（同 1.18）、心臓血管イベント（同 1.18）、冠動脈疾患（同 1.10）、脳卒中（1.15）のリスク増大と関連がみられた。同様に、中期的、短期的変動においても全死因死亡との関連がみられた（ハザード比は順に 1.15、1.10）。

したがって、血圧の長期的変動は心臓血管および死亡の転帰と関連し、平均血圧の効果を上回っていた。その関連の強さは、コレステロール値と心臓血管病との関連と同程度であった。また、限られたデータではあるが、中期的、短期的変動でも同様の関連が見られた。今後のさらなる研究においては、血圧変動評価の臨床的意義に焦点を合わせ、これまでによく見受けられたような交絡因子による落とし穴に留意しなければならない。

出典：British Medical Journal(Clinical research ed.). 2016; 354: i4098